【概要版】

互恵的な学びを支える保幼・小連携の推進

── 連携コーディネーターの仲介を基にした 幼児と児童の互恵的な交流の計画・実践・評価を通して ──

長期研修員　　大隅　敦史

社会的な要請

保育所・幼稚園等と小学校の連携

〇保育所保育指針　〇幼稚園教育要領　〇小学校学習指導要領

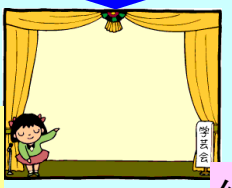
幼児児童に対する一貫性のある教育を実践できるように、連携することが求められている

連携の現状

幼児と児童の交流

行事や発表会への参加や参観など

保育のねらい・単元の目標、援助・支援が共通理解されずに実施されてしまう傾向にある



指導者間の連携

研修会・入学に向けての連絡会

幼児児童へ還元できないままに終わってしまう傾向にある

そこで

互恵的な交流で

指導者間の相互理解を深め、協力し
幼児児童の互恵的な学びの実現を目指す

そのために

連携コーディネーターが仲介となって

保育士と教師に

交流の根拠を確認し、交流は相互に価値があることに気付けるようにします。
互恵的な学びを実現する交流計画を立案できるようにします。
互恵的な交流を継続するよさに気付けるようにします。

研究の構想図

互恵的な学びを支える保幼・小連携の推進

コーディネーターの仲介

保幼　小学校

互恵的な交流を継続するよさへの気付き

交流することでたくさんの学びがありましたね。

交流評価シートを基に、交流での幼児児童の姿を共有する話合いの場を設定

互恵的な学び
- 児童への親しみ
- 小学校への期待感
- 自分の言葉で表現
- きまりの理解　など

互恵的な学び
- 幼児との適切な接し方
- かかわる楽しさの実感
- 分かりやすい伝え方
- 自分の成長の気付き　など

互恵的な交流計画の立案

保幼　小学校

協力して幼児児童それぞれに適した援助･支援をしましょう。

交流案シートを基に、交流を通しての価値や援助・支援を相互理解しながら計画する話合いの場を設定

交流は相互に価値があることへの気付き

保幼　小学校

保育園と小学校の関連している内容で交流していきましょう。

年間指導計画、保育所保育指針解説書・小学校学習指導要領解説総則編・小学校学習指導要領解説生活編を基に、関連性の視点で話合いの場を設定

実践例　交流は相互に価値があることへの気付き

交流の根拠の確認

保育所保育指針解説書や小学校学習指導要領解説総則編で連携や交流について関連を確認しましょう。

保育所保育指針解説書のP142のL21～P145、P260のL26～34に、小学校との連携について書かれています。

小学校学習指導要領解説総則編のP71・P72に連携や交流について書かれています。相互理解し、協力することが必要なのですね。

交流を通しての価値の理解

今回は、小学校は生活科で交流していきましょう。保育所保育指針解説書や小学校学習指導要領解説生活編の次の内容が、交流を通して一層深められる価値と考えられます。

保育所保育指針解説書
P78 異年齢の友達とのかかわり
P143　小学校への期待感

小学校学習指導要領解説生活編
内容の取扱いの配慮事項P49
P27　地域と生活
P36～38　生活や出来事の交流
P38　自分の成長

保育のねらいを達成しながら１年生になることへの期待感をもってほしいです。

保育園の幼児とかかわることを通して、自分の成長に気付いてほしいです。

関連のある保育内容・単元の気付き

自園・自校の年間指導計画から、関連のある保育内容・生活科の単元を探してみましょう。

Ⅰ期(４・５月)「友達と楽しく遊ぶ」
Ⅱ期(６～８月)「身近な動植物に親しみ、世話をする」
Ⅲ期(９～12月)「季節の変化に気付き、自然物を使っていろいろな遊びをする」
このような内容で交流できるとよいです。

6月「行ってみよう、やってみよう」
7月「外に行こう」
10月「はっぱのいろがかわったよ」
このような単元で、交流できそうです。

保育園Ⅲ期の保育内容と小学校10月の単元「はっぱのいろがかわったよ」の内容が関連しているようですね。

そうですね。秋の自然で一緒に遊ぶような交流ができそうですね。

実践例

互恵的な交流計画の立案

活動内容

どのような活動にしますか。

一緒に木の実を拾いに行くというのはどうでしょうか。

木の実を拾った後に拾った木の実で一緒に遊ぶと交流がつながってよいですね。

保育のねらいや単元の目標

ねらいや目標を明確にしましょう。

Ⅲ期のねらいから考えて「身近な自然に触れ、秋の自然物を使って遊ぶようになる」というねらいにします。

年間指導計画の単元の目標「落ち葉や木の実などで遊んだり、遊ぶ物を作ったりして友達と一緒に楽しく遊ぶことができる」を生かしたいと思います。

交流案シート

活動名　あきのしぜんでいっしょにあそぼう

小学校	保育園
目標　落ち葉や木の実などで遊んだり遊ぶ物を作ったりして、幼児や友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。	ねらい　身近な自然に触れ、秋の自然物を使って遊ぶようになる。
〈交流を通しての価値〉 A　幼児と適切に接することができる。 B　遊びを工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることができる。 C　かかわることの楽しさを味わうことができる。 D　幼児に分かりやすく伝えようとすることができる。 E　自分の成長に気付くことができる。	〈交流を通しての価値〉 a　児童に親しみをもつ。 b　友達と楽しく遊ぶ中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 c　秋の自然物に興味をもってかかわり、試したり工夫したりして遊ぶ。 d　自分の思いを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 e　小学校への期待感をもつ。

交流を通しての価値

交流にどのような価値がありますか。

活動内容	児童への支援	幼児への援助	交流を通しての価値に対する幼児児童への援助・支援
学校周辺で秋探しをする。	●○秋を身近に感じられるように室内（教室・保育室）に、秋の自然物を集める場を設定する。		
【交流活動１】 神社に出かけ、秋の自然物を拾ったり、拾った自然物を使って遊んだりする。	●○秋の自然にかかわり十分触れ合って遊べるように、活動時間を確保しておく。 ●○拾った自然物を使った遊びを工夫できるように、素材を用意しておく。		●○かかわって遊ぶことの楽しさを実感できるように、かかわっている楽しさに共感する言葉かけをする。　C　a ●○幼児と児童がかかわり、親しみをもてるように、同じ場で遊んでいたり関心の方向が似ていたりする幼児と児童を仲介する言葉かけをする。　C　a ●○親しみの気持ちがもてるように、神社から戻るときは、幼児と児童が手をつないで帰るようにする。　A　a
秋の自然物を使って飾る物や遊ぶ物を作ったり、作った物で遊んだりする。	○遊びに使う物や飾る物を工夫して作れるように、用具や素材を準備する。 ○作ったものを使って友達と楽しく遊べるように、時間と場の保障をする。 ○試したり工夫したりしながら作った物の改良ができるように、遊ぶ場と作る場を設定する。	●木の実や木の葉を使って遊べるように、室内に木の実や葉、製作に使える素材を置いておく。 ●自然変化に気付くように、園庭の木々の様子を話題に取り上げるようにする。	●児童への親しみの気持ちが続くように、児童と一緒に作った物を自分でも作って遊べるように材料や用具を用意したり、作ったもので一緒に遊んだりする。また、降園時に話題に取り上げる。　a
交流活動の計画を立て準備する。	○自分たちのアイデアを生かした遊びを創り出せるように、遊びごとのグループ編成にし、相談したり作ったりする時間を十分保障する。		○幼児と一緒にする遊びのイメージをもって意欲的に準備ができるように、幼児の遊びの様子を写真で紹介したり、幼児の思いを伝えたりする。また、幼児の立場を考えて幼児と適切に接することができるように、自分が保育園児だったときのことを思い出しながら話し合う場を設定する。　B　A ○自分たちの遊びを幼児に分かりやすく伝えられるように、遊びの説明の練習をする時間を設定する。伝える意欲を高めるために、ビデオレターを作成して保育園に送ることとする。自信をもって伝えられるように、分かりやすい話し方や言葉の選び方を具体的に賞賛する。　D ●児童が遊びの準備をしていることを知り、幼児が児童と一緒に遊ぶことへの期待を高められるように、児童が作ったビデオレターを紹介する。ビデオレターはいつでも見られるように準備しておく。　a ●きまりを守ることで楽しく遊べるように、小学校に行く前に楽しく遊ぶためのきまりについて話し合い、確認をする。　b
【交流活動２】 １年生の教室で、幼児と児童が一緒に秋の自然物を使って飾る物や遊ぶ物を作ったり、作った物で遊んだりする。	○●お互いに見合って遊びを工夫したり、試行錯誤したりしながら作った物の改良ができるように、遊びごとに遊ぶ場と作る場を設定する。		●幼児の興味・関心や小学校への期待感が膨らむように、１年生の教室を交流の場にする。　e ●○幼児と児童のかかわりが広がるように、幼児児童の遊びの様子を見守るようにする。　C　a ○幼児と適切にかかわれるように、幼児のことを考えて行動している姿や遊び方や作り方の分からない幼児に優しく教えている姿を認め賞賛する。　A ●積極的にかかわって遊べるように言葉かけをする。遊べずにとまどっている幼児には、したいことを伝えたり分からないことを尋ねたりできるように、幼児と一緒に児童に話したり、話すきっかけを作ったりする。　a　d ○自分の成長に気付けるように、活動の中で、幼児の工夫と自分たちの工夫を比べるような言葉かけをする。　E ●○かかわることの楽しさや親しみの気持ちを実感できるように、遊んだ後に楽しかったことを振り返って言葉で表現する場を設定する。　C　a
活動の振り返りをする。	○単元の学習を通して、工夫したことや気付いたことを振り返ることができるように絵や文で表すワークシートを活用する。	●児童と一緒にした遊びを再現しながら繰り返し楽しめるように、材料を準備したり場を設定したりする。	○一人一人の成長の気付きを全員で共有し広げていけるように、幼児とのかかわりを通して気付いた自分の成長について互いに伝え合うようにする。　E ●児童と遊んだ経験やその時の気持ちを伝えられるように、楽しかった気持ちに共感しながら聞き、受け止めるようにする。　d

※　●幼児への援助　　○児童への支援

交流を通しての価値に対する幼児児童への援助・支援

例　児童の考えた遊びを一緒にすることで、児童に親しみの気持ちをもち、１年生になることへの期待感がもてると思います。

例　普段、年下の幼児と遊ぶ機会のない児童もいますので、この機会に幼児とかかわる楽しさを感じてほしいです。その中で、自分の成長にも気付いてほしいです。

交流を通しての価値を達成するためには、どのような援助・支援が必要ですか。

例　小学校は、「分かりやすく伝える」という内容もあるのですね。積極的にかかわるように幼児に援助していきます。そうすることで、児童には伝える場ができ、幼児も児童に親しみをもてる機会になると思います。

保育のねらいや単元の目標に対する幼児児童への援助・支援

ねらいや目標を達成する援助・支援を考えましょう。

木の実や木の葉を使って遊べるように、室内に木の実や木の葉、製作に使える素材を用意しておきます。

お互いに見合って遊びを工夫したり、試行錯誤したりしながら、作った物の改良ができるように、遊びごとに遊ぶ場と作る場を設定したいです。

例　保育園の幼児も秋の自然物に興味をもってかかわり、試したり工夫したりして遊ぶことが大事なのですね。小学校も同じような内容があるので、工夫の質の違いから自分の成長に気付けると思います。活動の中で、幼児の工夫と自分たちの工夫を比べるような言葉かけをしたいと思います。

実践例

互恵的な交流を継続するよさへの気付き

交流の場面で気付いた幼児児童の姿をこの交流評価シートを基に話してください。

交流評価シート

「あきのしぜんでいっしょにあそぼう」

保育のねらい　身近な自然に触れ、秋の自然物を使って遊ぶようになる。
生活科単元の目標　落ち葉や木の実などで遊んだり遊ぶものを作ったりして、幼児や友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。

	保育園	評価	小学校生活科	評価
ねらい・目標の達成	身近な自然に触れ、秋の自然物を使って遊ぶことができたか。		落ち葉や木の実などで遊んだり遊ぶものを作ったりして、幼児や友達と一緒に楽しく遊べたか。	
交流を通しての価値の達成	a　1年生に親しみをもつことができたか。		A　幼児と適切に接することができたか。	
	b　友達と楽しく遊ぶ中できまりの大切さに気付き、守ろうとすることができたか。		B　遊びを工夫したり、遊びに使うものを工夫して作ったりすることができたか。	
	c　秋の自然物に興味をもってかかわり、試したり工夫したりしながら遊ぶことができたか。		C　幼児とかかわることの楽しさを味わうことができたか。	
	d　自分の思いを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりすることができたか。		D　幼児の立場を考え分かりやすく伝えようとすることができたか。	
	e　小学校への期待感をもつことができたか。		E　自分の成長に気付くことができたか。	
幼児と児童の学びの姿				
交流を通しての指導者の気付き				

互恵的な学びの姿の共有

交流活動1

＜ a児童への親しみ ＞
お姉さんとどんぐりをいっぱい拾って楽しかったよ。

＜Cかかわることの楽しさ＞
ぼくは弟も妹もいないから、小さい子のお世話ができてうれしかったよ。

交流活動２の計画・準備

＜保育のねらい＞
＜c遊びの工夫 ＞
お姉さんと拾ったどんぐりと木の枝と保育園の画用紙と折り紙をあわせて、かっこいいかんむりを作ったよ。

＜単元の目標 ＞
＜B遊びの工夫＞
どんぐりの種類によってどんぐりごまの回り方が違うよ。ぼくは、形がよくて重いどんぐりを選んでどんぐりゴマを作ったよ。

交流を生かした遊び

＜d自分の言葉で表現 ＞
（ビデオレターを見て）あの遊びはお兄さんが作ったの？すごいね。先生、ぼくもどんぐりごまが作りたいな。

＜D分かりやすい伝え方＞
ぼくたちが考えた遊びをビデオレターで伝えたよ。保育園の子に分かるように簡単な言葉でゆっくり話したよ。

交流活動2

＜bきまりの理解＞
どんぐりの的当ては難しかったけど、お兄さんが決めたルールでやったらおもしろかったよ。

＜A幼児との適切な接し方＞
的当てで保育園の子がなかなか的に当たらなかったから近くで投げてもいいことにしたよ。

交流の振り返り

交流の発展

＜e小学校への期待感 ＞
今度ここで勉強するんだ。早く１年生になりたいな。

＜E自分の成長の気付き＞
どんぐりごまを作るとき、どんぐりに穴を開けてあげたよ。ぼくも前はできなかったけど今はできるようになったよ。

児童と一緒に遊ぶことでいろいろな遊びができました。とても楽しかったようで、児童や先生に親しみがもてました。1年生になるのを楽しみにしています。

幼児とのかかわりの中で、自分の成長を実感する場面が多く、自信をもった行動が見られました。交流したからこそ達成できる学びがたくさんあり、効果的に単元の目標が達成できました。

互恵的な交流の計画・実践・評価をしてきていかがでしたか。

児童からよい刺激を受けて遊びがより充実したので生活に活気が出ました。小学校の先生との協力があったからだと思います。小学校の先生の指導方法をもっと知りたいと思いました。

互恵的な交流を継続するよさへの気付き

保育園の先生の支援もあり、幼児の立場に立って分かりやすい話し方をしようとする姿が見られました。交流によって、他の教科にも通じる学びが得られました。

〈成果〉　連携コーディネーターの仲介を基に

保育士と教師が年間指導計画と保育所保育指針・学習指導要領の交流に関連する部分を確認したことで、交流は相互に価値があることに気付くことができた。

交流案シートを基に、保育士と教師が交流計画を進めたことで、交流を通しての価値や援助・支援を相互理解しながら互恵的な交流計画を立案することができた。

交流評価シートを基に、保育士と教師が交流での幼児児童の互恵的な学びの姿を共有したことで、互恵的な交流を継続するよさに気付くことができた。

〈課題〉

互恵的な交流を教育課程に位置付け、他の教科においても交流できるようにしていく必要がある。

問い合わせ先　群馬県総合教育センター
担当係：幼児教育センター　０２７０－２６－９２２１（直通）